

## PRESS RELEASE



独立行政法人国際協力機構

□ 内容についてのお問い合わせ

独立行政法人国際協力機構（JICA）沖縄センター  
市民参加協力課 西原 / 亀谷  
TEL：098-876-6000 FAX：098-876-6014  
<http://www.jica.go.jp/okinawa/index.html>

# 青年海外協力隊によって受け継がれるニカラグアでのエイサー 沖縄県青年海外協力隊を支援する会が太鼓を寄贈

### 記

- 1 日時：8月21日（火曜日） 15：00～15：20
- 2 場所：JICA 沖縄 オリエンテーションホール（浦添市前田1143-1）
- 3 贈呈品：①エイサー太鼓（パーランクー）30個 ②輸送費
- 4 贈呈先：中央アメリカ大学（ニカラグア）日本語専攻学生
- 5 プログラム 1. 経過報告 2. ニカラグアでのエイサーをビデオ紹介  
3. 太鼓贈呈 4. 関係者コメント 5. 写真撮影
- 6 参加者  
贈呈者：沖縄県青年海外協力を支援する会副会長 上原 盛毅  
〃 運営委員 東江 賢次  
贈呈先（代理）：JICA 沖縄 所長 河崎 充良  
青年海外協力隊員 比嘉 可苗（職種：助産師）

### ○背景○

2014年3月～2017年3月まで北中城村出身の比嘉のぞみ隊員がニカラグアの大学にて日本語教育として派遣される。その際に比嘉のぞみ隊員は北中城村の各自治会にエイサー太鼓（パーランクー）の寄付を依頼し20個の太鼓が2014年9月に届けられ、学生たちにエイサーが伝えられた。輸送費は沖縄県青年海外協力隊を支援する会（以下、支援する会）が負担。

今日でもエイサーは受け継がれ続け、ニカラグアでエイサーが踊れる唯一の団体として日本文化紹介のイベントで披露している。

2017年10月に比嘉可苗さん（北中城村出身）はニカラグアに助産師として派遣され、ここでエイサーが踊られていることに大変感銘を受ける。学生たちが使用する太鼓は、現在は膜が破れていたり、手持ちの部分が壊れていたりほとんどが使用できない状態となっており、イベントなどで物品を販売し太鼓の修繕費を集めているが不十分である。

それを知った比嘉可苗隊員は2018年5月に支援する会へ太鼓の寄付を要請し、今回、ニカラグアへ寄贈することが決まる。以上

※比嘉可苗隊員はニカラグアの情勢不安を受け、8月26日にグアテマラへの振り替えが決まっている。現職参加制度を利用し沖縄県立中部病院に籍を置いたまま、青年海外協力隊へ参加。